

点検人員の算定根拠資料(橋長15m未満 梯子車)

1橋当たりの点検日数(日／橋)について、以下の算定式により算出する。

$D = [A / (8 \cdot Y_b)] + D_m \times \text{係数}$ (日／1橋)

A : 橋梁調査面積(m²)で、 $A = L(\text{橋長}) \times W(\text{全幅員})(\text{地覆外縁間距離})$ $5.3 \times 5.6 = 29.7 \text{ m}^2$

Y_b : 1編成1時間当たりの基準作業量:調査面積との累乗近似式(m²／h)

梯子 : $4.03 \times A^{0.58}$ 但しY_bの最大を210とする $4.03 \times 29.7^{0.58} = 28.8 \text{ m}^2/\text{h}$

D_m : 1橋当たりの移動日数 0.06 (日／1橋)

係数 : 0.470

$D = [29.7 / (8 \times 28.8)] + 0.06 \times 0.470 = 0.089 \text{ 日／1橋}$

橋梁点検日数 $0.089 \text{ 日／1橋} \times 1 \text{ 橋} = \underline{\underline{0.089}} \text{ 日}$

※1橋当りの点検日数の最小値は【梯子】の場合 0.168 日であるため 0.168 日とする。

点検人員の算定根拠資料(橋長15m以上 梯子車)

1橋当たりの点検日数(日／橋)について、以下の算定式により算出する。

$D = \{ [A / (8 \cdot Y_b)] + D_m \} \times \text{係数}$ (日／1橋)

A : 橋梁調査面積(m²)で、 $A = L(\text{橋長}) \times W(\text{全幅員})(\text{地覆外縁間距離})$ $25.5 \times 4.5 = 114.8 \text{ m}^2$

Y_b : 1編成1時間当たりの基準作業量:調査面積との累乗近似式(m²／h)

梯子 : $4.03 \times A^{0.58}$ 但しY_bの最大を210とする $4.03 \times 114.8^{0.58} = 63.1 \text{ m}^2/\text{h}$

D_m : 1橋当たりの移動日数 0.06 (日／1橋)

係数 : 0.470

$D = \{ [114.8 / (8 \times 63.1)] + 0.06 \} \times 0.470 = 0.135 \text{ 日／1橋}$

橋梁点検日数 $0.135 \text{ 日／1橋} \times 1 \text{ 橋} = \underline{\underline{0.135}} \text{ 日}$

※1橋当りの点検日数の最小値は【梯子】の場合 0.168 日であるため 0.168 日とする。

点検人員の算定根拠資料(橋長15m以上 点検車)

1橋当たりの点検日数(日／橋)について、以下の算定式により算出する。

$D = \{ [A / (8 \cdot Y_b)] + D_m \} \times \text{係数}$ (日／1橋)

A : 橋梁調査面積(m²)で、 $A = L(\text{橋長}) \times W(\text{全幅員})(\text{地覆外縁間距離})$ $101.2 \times 4.5 = 455.4 \text{ m}^2$

Y_b : 1編成1時間当たりの基準作業量:調査面積との累乗近似式(m²／h)

点検車 : $3.54 \times A^{0.53}$ 但しY_bの最大を150とする $3.54 \times 455.4^{0.53} = 90.8 \text{ m}^2/\text{h}$

D_m : 1橋当たりの移動日数 0.06 (日／1橋)

係数 : 0.470

$D = \{ [455.4 / (8 \times 90.8)] + 0.06 \} \times 0.470 = 0.323 \text{ 日／1橋}$

橋梁点検日数 $0.323 \text{ 日／1橋} \times 1 \text{ 橋} = \underline{\underline{0.323}} \text{ 日}$

※1橋当りの点検日数の最小値は【点検車】の場合 0.308 日であるため 0.323 日とする。